

# 新年のご挨拶

院長 沼尾 利郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸を心からお祈りいたします。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

さて、昨年は当院にとって大きな飛躍の年となりました。4月には医療・介護連携支援ステーション(宇都宮市から業務委託)の運営を開始して、地域の医療と介護の連携強化を支援しています。また開設5年目の地域包括ケア病棟は平均利用率94%超を維持しており、重症心身障害病棟を含む入院患者数や救急患者受入数の増加などにより、今年度の経常収支率(4~10月)は107.1%(関東信越にある32機構病院中第1位)という結果を残すことが出来ました。今後は安定した病院経営を維持した上で医療の質の更なる向上と全面建て替えの早期実現、さらには働き方/働きやすさの改善が当面の大きな課題であり挑戦です。

挑戦と言えば、日本を代表する洋画家である小磯良平の没後30年を記念した展覧会「西洋への憧れと挑戦」を観る機会が昨年ありました(神戸市立小磯記念美術館)。卓抜した描写と近代的感覚により典雅で気品のある女性像を描き続けた小磯ですが、戦時下の大画面群像や戦後の抽象表現・オランダ室内画への傾倒など、新しい表現をめざして葛藤と模索を重ねた彼の軌跡がよく分かりました。生涯を通じて西洋画を学び挑戦し続けた小磯良平のように、時代や社会の変化に対応して果敢にチャレンジすることが今の当院には求められています。



斉唱(1941年)小磯 良平

今年の干支(えと)は亥(イノシシ)ですが、次世代へ向かう準備をするとか万病を予防する(無病息災)意味があるそうです。時代がどんなに変わろうとも、私たちがなすべきことは変わりません。地域との連携をより一層推進させながら、治らない病気や重い障害があっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしが続けられる「地域包括ケア」の構築と、高齢者や障害者など全ての住民が相互に支え合いながら、暮らしや生きがいを創り高め合う「地域共生社会」の実現を目指して努力いたしますので、本年も皆様のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。